

2014年度

# 介護職員初任者研修（通学形式）実施報告

期間：2014年10月9日（木）～11月28日（金）

主催：東京都生活協同組合連合会

会場：東京都生協連会館及び会員生協介護事業所

受講者：18名

東京都生活協同組合連合会では、介護を必要とする方の生活を支える仕事に就くための実践的な介護職員の養成を目的とした「介護職員初任者研修」を実施しました。

開講式では、東京都生協連伊野瀬会長理事による記念講演「生協の理念・歴史・現状・そして未来」を行われました。生協は助け合いの組織である事や東日本大震災に於ける生協の支援、東京の生協が目指す未来像について話されました。



10月9日

講義

10月10日



◆記念講演「生協の理念・歴史・現状・そして未来」 伊野瀬十三 東京都生協連会長理事

◆多様なサービスの理解

2000年から始まった介護保険経過と2015年から予定されている介護保険制度改定と地域包括ケアについて学びました。認知症・独居が急増し、75才以上の介護認定率が上がり特に都市部が深刻である事がわかりました。

齊藤恵子さん  
東京保健生協介護事業部長

◆介護職の仕事内容や働く現場の理解

日本は急速な高齢化を迎え、介護は5番目の社会保険と言われている。その中で、介護職の役割と働く現場の状況を学んだ。

◆自立に向けた介護

介護の基本的な視点や介護保険サービスは利用者本人の為になる事や、ちょっとした事に気付く見守りの目が大切になる。ノーマライゼーションの理念やICFの考えを学びました。

森美沙子さん  
東京都生協連

松本和子さん  
訪問介護 青い空

10月14日

◆介護保険制度

最初に自己紹介、動機と“あなたが考える良い介護とは？”を出し合った。

お互いに無理をしない・介護する人を支える事がまわりも助ける事につながる等が出された。

介護保険の目的は自立支援と尊厳の保持である。

◆障害者総合支援制度及びその他制度

制度（仕組み）って何？サービスを保障し、介護を根底から支え、働く人にとって労働・生活を保障するものである。成年後見制度について学びました。

江本淳さん  
日本医療福祉生協連合会 介護福祉士

10月16日

◆人権と尊厳を支える介護

私達（介護職）が支援する

利用者についての理解。手伝える事が介護ではない事や、生活の構造、介護の内容、対象者について学びました。尊厳については生命倫理の4原則やプライバシー権職業倫理を学び、自立・自律が尊厳の保持につながる。福祉保険法、介護保険法やICF（国際生活機能分類）、ノーマライゼーション8原則について理解を深めました。男女、年齢差、障害の有無に関わらず、その人らしく生活できる社会を実現していく大切な考え方を学びました。

内田千恵子さん  
日本介護福祉会 副会長

10月17日



田中邦彦さん  
介護センター健生練馬

◆介護職の役割、専門性と多職種との連携

日常生活の自立を支援することが役割である。住み慣れた地域で暮らす地域重視型システムへの転換。介護職は提供する介護サービスを通し、利用者が持つ能力を生かして自立した生活を送り、QOL（生活の質の向上）を高められるように援助する。

◆介護における安全の確保とリスクマネジメント

リスクマネジメントの過程は、PDCA（アセスメント、実施、評価、改善の取り組み）サイクルであり、半永久的である。リスクマネジメント体勢の3つの柱、感染対策、環境整備について学びました。



柴田睦美さん  
ヘルパーステーションのぞみ

◆介護職の職業倫理

講義に入る前に

「どんな介護をしたいか」「どんな介護職をイメージしているか」を一人ずつ発表した。介護者はやってあげている！ではなく、共に成長していく意識を常に持つ事の大切さを事例検討を通して、学びました。何故、私達がここに来ているか？ボランティアでなくプロである事を自覚し、利用者に理解してもらえない時は、事務所へ相談する事等、対応について学びました。

◆介護職の安全

働く事の基本として、健康管理・ストレスマネジメントについて学びました。

10月20日



吉田道さん  
ヘルパーステーション虹

◆介護におけるコミュニケーション

1) コミュニケーションって何だろう？二人組でロールプレイを通して、コミュニケーションを通して気を付けている事を出し合いました。コミュニケーションは技術！介護職が相談援助を行う際、バイスティックの7原則を意図的に使い、自分の価値観だけで計らない。記録の時にも相手がどう感じるかに気を付け、丁寧な字で書くように心掛ける。介護職の守秘義務についても学びました。

◆介護におけるチームのコミュニケーション

医療と介護の連携が出来るように、伝えたい事を正確に伝える。介護の現場はチームで動いているので、常に「報告・連絡・相談」を心掛け、共通認識を持つ。報告書は、5W1H（いつ・どこで・誰が・何を・どうしたか）を正確に記述する。真実をその日のうちに、ボールペンで書く。書く事で、自分自身も守る事につながる。レスパイトケア（在宅で障害者(児)や高齢者などを介護している家族の癒しを目的にしている）についても学びました



10月21日



野崎佳代子さん  
東京保健生協 看護師

◆老化に伴うこころとからだの変化と日常

加齢により、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の変化が起こり、悪いところは1つではないが、介護職は出来ないところを手助けする。注意力の変化と反応の変化が起きてくる。記憶の変化（忘却）、知能、感情、性格にも変化が起こってくる。

脈を計ってみたり、受講生による体操なども実施しました。



◆高齢者と健康

加齢・老化に伴う生理的な変化について人の体の成り立ち、細胞・組織・器官・系の変化と日常生活への影響を学びました。老化は生理的老化と病的老化に分けられ、生理的老化は加齢に伴い誰にも必然的に起こる機能低下で病的老化は疾病により生じる老化である。高齢者に多い疾病に、メタボリックシンドロームが挙げられる。高齢者は感染症にかかりやすく、症状の変化に気付く視点を持つ事が大切である事を学びました。

10月23日



大澤千恵子さん  
グループホーム虹の家  
しおかぜ

◆認知症を取り巻く状況

認知症管理者研究など日々、学習・情報が進歩している。認知症とは何か。症状＝実際の症状でなく、その人・現実が事実と捉える。「物忘れ」と認知症による「記憶障害」の違いを学びました

◆医学的側面から見た認知症の基準と健康管理

先生が持参して頂いた写真を見ながら、グループホームについて学んだ。認知症の種類はたくさんあるが、日本で多いのは、アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症である事、その行動等を学びました。

◆認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活

高齢期の身体的特徴を理解し、認知機能と身体機能が密接に関係している点を理解し“ふだんの体調を整えるケア”が重要である。その人は何をしたいのか！眼差しを送る関係を築く事等を理解しました。

◆家族への支援

介護負担の軽減（レスパイトケア）、認知症の受容過程での援助、認知症のケアも家族介護の場合と専門家のケアの違いを学びました。

10月24日



西村祐子さん  
東京ほくと医療生協  
福祉事業部 副部長

◆障害の基礎的理解

障害の構造は世界保健機構が1980年に「国際障害分類（ICIDH）」が障害を機能・形態障害、能力障害、社会的不利の3つに分類したが、誤解を招く危険もあったので、2001年に「国際生活機能分類（ICF）」を発表した。ICIDHではできない面を強調し、ICFではできる面を強調している事を学びました。

◆障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、関わり支援等の基礎的知識

ADL（日常生活動作）からQOL（生活の質）へ。インクルージョン、ノーマライゼーションについて学びました

◆家族の心理、かかわり支援の理解

障害がある家族を持った心理を受容のプロセスを通して理解した支援と家族のQOLにつながる支援を心掛ける事を学びました。



黒澤秀幸さん  
はちせい複合事務所  
もとはち 作業療法士

◆医療との連携とリハビリテーション

現在のリハビリテーション治療の対象には、機能回復だけでなく、障害を持った人が人間らしく生きる権利の回復（全人間的復権）を目的とした、すべての活動が含まれている。リハビリテーション介護の理念を学び多職種との連携、チームとして関わる大切さ、連携の要はコミュニケーションである事を理解しました。各ステージごとのリハビリテーションについても学びました。

10月27日



齊藤恵子さん  
東京保健生協 介護事業部長

◆介護に関するこころのしくみの基礎的理解

ICFの視点に基づく生活支援・「心身機能・構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」それぞれが相互に影響し合っているという考えをさらに理解しました。

◆介護の基本的な考え方

ICF整理ノートを使い、書き込みをし、グループで出し合った。家政婦さんと介護者の違い、ニーズとデマンドを学び利用者さんに合わせた介護なので答えは1つではない事を知りました。



吉田道さん  
ヘルパーステーション 虹

10月28日



松本洋子さん  
グループホームほくと  
ひまわりの家



◆介護に関するからだのしくみの基礎的理解

からだのしくみを知る事で介護する人の体も守る事につながる。身体の部位は専門用語で覚える。ボディメカニクスの7原則を知り、介護への活用をする。4つのキーワードに支持基盤面・重心・てこの原理・身体の動きを揚げている等を学び、午後は2人組みになり、身体を使つての演習となりました。自分の脈拍、人の脈拍を取りました。

◆実習のオリエンテーション（事務局）

10月30日



今泉由美さん  
介護センター 健生

◆生活と家事

日常生活行為を継続していくうえでの基本は家事行為。介護職が行う家事支援は専門的な技術と知識によって利用者の心身機能低下の予防や自立支援に資するもので、利用者の生活歴を理解し、価値観を尊重する事、できる事に着目した支援と捉える。

◆快適な居住環境整備と介護

介護保険を利用した住宅改修、その種類、支給限度額、福祉用具等を学び、今だけでなく10年先を見越した環境作りを学びました。



黒澤秀幸さん  
はちせい複合事務所  
もとはち作業療法士

10月31日



及川祥子さん  
八王子保健生協

◆死にゆく人に関した心とからだのしくみと終末期介護

人は必ず死を迎える。死が間近な状態を終末期（ターミナル）と呼び、終末期ケア（ターミナルケア）と言う。看取りの現状、緩和ケアの定義、高齢者の死に至る現状を学びました。終末期における家族の負担などを知り、寄り添う支援を考えました。

中嶋真美子さん  
八王子保健生協



11月16日

◆入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

入浴の持つ意味（清潔保持）と援助のポイントを学び、実際にベッド上で寝たままの洗髪を行い、ケリーパッドの存在を知りました。ここでも声掛けが重要である事を学びました。入浴時の介護のポイントを学び、麻痺のある方（実習生）のサポートをし、自身も機械浴・ミスト浴を経験しました。



◆睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護

睡眠は生命の営みを支える基本で生活のリズムを作っていくものです。安眠のために環境の整備が不可欠で、実習ではベッドメイキングを行いました。

◆整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

日常生活を送る身だしなみを整えることを整容という。衣類の着脱介護のポイントを学び、グループに分かれて演習を行いました。



和田素子さん  
ヘルパーステーション  
あさがお

11月18日



高橋亮さん  
ヘルパーステーション  
こだま

◆移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

身体が動かず、ひとつの体位にいるといろいろな弊害が起こり、血液循環が悪くなると褥瘡が出来やすくなる。さまざまな臓器機能の低下や、廃用症候群を起こしやすくなり生活能力の低下につながる。介助する時の注意点としてボディメカニクスの応用が挙げられる事を学びました。午後は、グループに分かれて車椅子に乗って外を歩いたり、階段を目隠しをして上り下りする演習を行いました。



補助講師  
橋本陽子さん  
ヘルパーステーション  
虹・清瀬



11月20日



補助講師  
山口友紀さん  
介護センター 健生



志村美登里さん 上井草  
虹のヘルパーステーション

◆食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

食事介助は出来ない事を手助けするだけでなく、介助を通して利用者の理解につながり、食事動作の安全、食事行動の自立性を高める事を学びました。咀嚼、嚥下のメカニズムを理解し、グループになって実際に食事介助を行い、午後は口腔ケアの支援技術を学び演習を行いました。



補助講師  
村上和子さん  
上井草 虹の  
ヘルパーステーション

**11月21日**



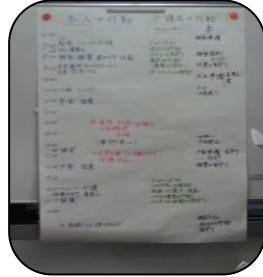
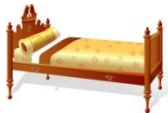
**外山勝人さん**  
介護老人保健施設  
ほくと はなみずき

**◆排泄に関連したところとからだのしくみ  
と自立に向けた介護**

排泄の基礎知識、障害に合わせた  
排泄ケアパターンや排泄介護での  
大事なポイントを学びました。ベッドからポ  
ータブルトイレへの移乗を行いました。  
洋服の上から実際にオムツを  
当ててもらい、利用者の立場になって  
行う事の意義を身をもって知りました。



**補助講師  
山田桃子さん**  
介護老人保健施設  
ほくと はなみずき



**11月26日**



**北村博孝さん**  
八王子保健生協 地域リハ  
ビリテーションセンター

**◆介護過程の基礎的理解**

今日の講義は、これまでの総まとめの内容で  
した。介護保険制度において、総合的なサー  
ビスの提供はチームアプローチが前提となっ  
ている。利用者の生活課題を明確にするアセ  
スメントや報告書の重要性、心掛けておく事、  
介護過程の目的・意義を再確認出来ました。

**11月25日**



**高橋亮さん**  
ヘルパーステーション  
こだま

**◆総合生活支援技術演習**

事例を基に午前中は個人でICFの視点から  
書き込みをし、午後はグループワークで模  
造紙に書き出し、発表しました。書き込みは  
事実だけをし、留意する点は出来ている事・  
出来ないために介助・見守りが必要な事を見  
つけ出す事を学びました。



**補助講師  
橋本陽子さん**  
ヘルパーステーション  
こだま



**11月27日**



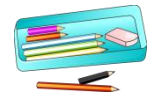
**森美紗子さん**  
東京都生協連

**◆振り返り**

全期間の講座内容を振り返り、分野ごとのポ  
イントを押さえました。

**◆就業への備えと研修終了後における継続的  
な研修**

**◆修了評価筆記試験実施**



**◆事業所説明会**

10/31, 11/21, 28に  
生協の事業所より就業に向けての、紹介と説明を  
行いました。



11月1日～11月21日のうち2日間

都内各所の施設に分かれて、ホームヘルプサービス同行実習と在宅サービス提供現場の見学実習を行  
いました。



11月28日

## 修了式・懇親会



◆模擬回答解説

◆修了式

18名の受講生全員が、研修の全過程を修了し修了評価筆記試験に合格して、一人ずつ修了証明書が発行されました。これまでの講座で毎回各自が書いてきた、講座のまとめが手渡されました。



## 受講生アンケートより ～研修を受けて～

- 自分の知らない事を多く学べ、いろいろな方と知り合えてとても良かった。
- 今まで思っていた「介護」について誤った認識があった事を知る事が出来た。
- 資格を取ったら働こうと思っていたが、講義を受けてしっかり職を探そうと思った。
- 講師の先生方の言葉使いが丁寧で、優しく、相手を尊重している事が伝わり、感銘を受けました。
- グループワークをする時間は自分だけでは出てこない案も出て、とても楽しかった。
- 時間帯も良く、週の真ん中に休講日を設けてあるのはいいと思う。
- 実技については実習前に受講出来たほうがいいと思う。実習をもう少し経験出来れば、各施設によるサービスの違いを学べたと思う。

## 研修を終えて

介護職員初任者研修開催にあたり、7会員生協から28名の方々に講師をお願いしました。現場を良く知る講師の方々からは、介護が置かれている現状や事例について経験に基づき丁寧な講義をして頂きました。講義の中には演習や実技も含まれ、グループワークなどの話し合いも通し、利用者との関わり方や周りとの連携、コミュニケーションなども学ぶ事が出来た中味の濃い研修となりました。

また、この研修では実習は義務付けられていませんが、東京都生協連では7生協、21か所の介護事業所のご協力を得、ホームヘルプと通所サービスの実習を行いました。

受講生18名は120時間の講義と10時間の体験実習を終え、修了評価筆記試験に合格をし、全員が修了することができました。受講生の皆さんは知識や技術を熱心に学び、欠席をし、補講になった人に何人かが残って一緒に演習を行ったり、お互いを励まし合って修了式を迎えました。今後、介護現場での就業を目指したり、家庭での介護に活かしたりと、この研修で学んだ事をこれからの生活につなげていく事が期待されます。